環境保全協定に基づく「環境保全報告書」

令和 7 年度環境保全報告書　　ナブテスコ株式会社西神工場

①当該年度の重点取組目標・計画の実施状況

ア. 地球温暖化対策【温室効果ガスの抑制】

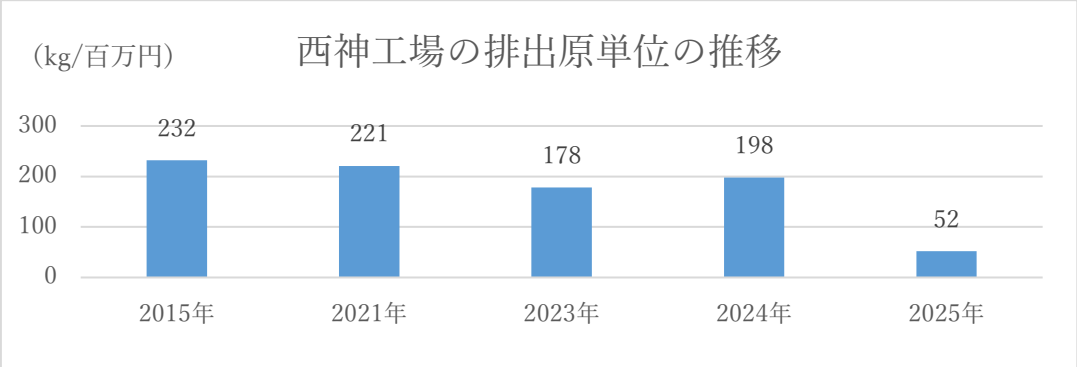
CO_2について、燃料および電力の省エネルギーを行い、排出量低減に努めている。

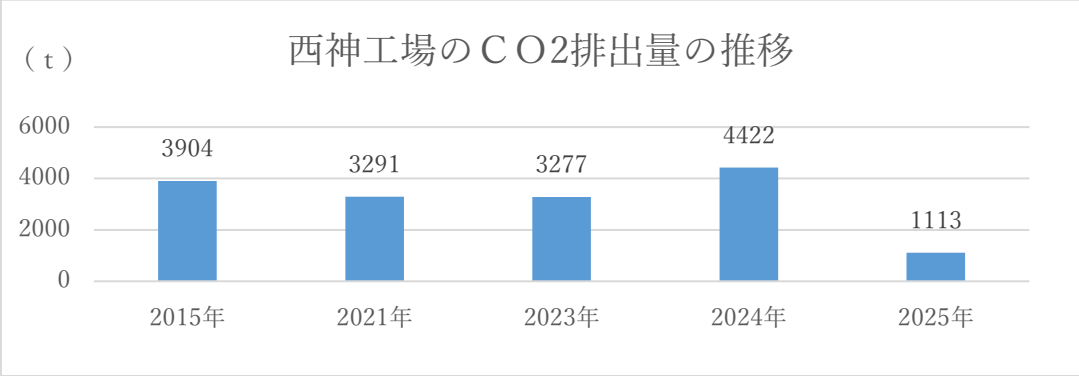
当社では、長期目標 2015 年基準 63.0%絶対量削減(2030 年度)を定め、その達成のために、単年度目標を定めて活動している。2025 年度のナブテスコ全社単年度目標は 2015 年度基準 42%減の 1,581(ton)であるが、生産計画および省エネ活動を合わせて 2015 年度基準 51.9%削減の 1,311(ton)を設定した。

実績について、CO2 排出量削減の対策として 2025 年度から電力購入による CO2 排出量を電力供給先からの CO2 フリー電力購入および FIT 制度購入量による差し引き計算値とし、工場排出量を計算して示し評価する。以下の表が示すように電力購入による CO2排出量は 2023 年度および 2024 年度は CO2 排出量が増加しており 2021 年度の 2022 年 1 月から CO2 フリー電力の購入を開始、また 2023 年度から FIT 制度を活用はしていたが 2024 年度までは、差し引きを行わず計上していた。大量に電力および LPG を使用していた建機用機器の製造部門が 2025 年度中の 2026 年 1 月からに別会社となり、ナブテスコとしてのエネルギーの使用量が半分以下となり、CO2 削減効果を自工場内での設備対応のみでの達成は困難となったため計上方法を変更して、経済的に削減した効果を考慮する。工場全体の目標値 1,311(ton)を 197(ton)下回る 1,113(ton)で目標値より 15%削減となった。

工場ＣＯ₂排出状況

項目		2015年 (基準年)	2022年	2023年	2024年	今年度 2025年
生産高	（百万円）	16,833	16,076	18,449	22,302	21,302
工場 ＣＯ₂ 排出量	ＬＰＧ　(t)	201	194	196	184	128
	ガソリン　(t)	7	0	0	0	0
	軽油　(t)	3	0	0	0	0
	メタン　(t)	0	2	2	2	2
	電力購入　(t)	3,693	2,529	3,079	4,236	983
	合計　(t)	3,904	2,726	3,277	4,422	1,113
工場排出原単位(kg/百万円)		232	170	178	198	52





イ．省エネルギーの推進

西神工場では、エネルギーとして電力、LPG、ガソリン、軽油を使用しておりエネルギー毎に削減目標を立て省エネルギーとなるよう活動している。電力は建物の断熱強化、設備・機器の更新および損失と運用の改善を行って省エネルギーを推進している。電力削減の取組として工場の屋根に太陽光パネルを令和６年に乗せての太陽光発電を継続した。

燃料系の削減対応としてLPGのほとんどを製品の表面処理液の温度上昇に使用していてLPGの削減の方法を見いだせていなかったが、使用している部門が別会社となりさらに西神工場から移転する計画となっているため、LPG での製品生産はナブテスコとしては令和７年１２月末でなくなった。ガソリンは使用していた構内運搬車は運用を中止し廃車としたため、停電時のレンタル発電機等の使用で在庫がなくなれば使用自体がなくなる。ただし、軽油は構内での技術部試験品搭載建設機械運転試験用として使用は継続する。

②公害防止対策に係る報告

ア．目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

目　標　項　目			目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
大気汚染防止対策	「大気汚染防止法」、「大気汚染防止法第4条第1項の排出基準に関する条例(兵庫県条例)」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」等の法令の規定を遵守		遵守できた。	定期的に点検を実施した。
水質汚濁防止対策	(公共用水域に排出する場合)			
		「水質汚濁防止法」、「水質汚濁防止法第3条第1項の排水基準に関する条例(兵庫県条例)」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」等の法令の規定を遵守する。	遵守できた。	雨水等の排水溝への油漏れ等なきよう周知対応実施した。
	(公共下水道を使用する場合)			
		・計画書別表2に記載する排出水の水質に係る管理目標値を遵守する。 ・排出規制がない有害物質について、可能な限り使用量及び排出量を把握し、排出削減に努める。 ・有害物質等による地下水汚染の未然防止及び拡散防止に努める。	・水素イオン濃度(pH)6.6～7.9(5＜pH≦9)達成 ・ノルマルヘキサン抽出物質。動植物油脂類含有量　排除基準150mg/L以下で分析結果は最大33mg/Lで達成 ・ノルマルヘキサン抽出物質の鉱油類含有排除基準5mg/Lに対し最大2.2mg/Lで達成	排水基準値内処理を維持した。

水質汚濁防止対策	(有害物質を使用している場合)			
		・排出規制がない有害物質について、可能な限り使用量及び排出量を把握し、排出削減に努める。 ・有害物質等による地下水汚染の未然防止及び拡散防止に努める。	有害物質の削減ができた。	有機溶剤を有機溶剤中毒予防規則非該当の有害物質非含有の製品を継続使用。

目　標　項　目		目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策
騒音防止対策	「騒音規制法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。	敷地境界線での騒音を定期的に測定。第１種住居地域に接する敷地境界線南側バッファゾーンでは、夜間の時刻に、送風機音と建物外のダクトからの騒音により、第３種区域の規制値を越えていた。そのため令和７年度中に夜間運転する設備を敷地境界線直近の建物から建物と敷地内道路を挟んだ建物に移設することで解消した。	南側バッファゾーンの敷地境界線で騒音を発生していた建物内送風機につながるダクトを３年前に建物外壁から内側にして、騒音が規制値内に収めた。しかし、令和６年中に排気抵抗増加でダクトが詰まり、排気不能となった。そのため元の外壁へダクトを出したため夜間で規制値を越えた。令和７年度に設備移設により敷地境界線での製品製造業務運転による騒音は解消できた。
振動防止対策	「振動規制法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。	順守できた。	法律で規制される設備の設置はなかった。
悪臭防止対策	「悪臭防止法」及び「環境の保全と創造に関する条例(兵庫県条例)」に定める基準を遵守する。さらに、神戸市悪臭防止暫定指導細目の目標値を遵守する。	順守できた。	臭気の強いものを扱うときは緩和するように対応してから、運用する体制をとっている。
土壌汚染防止対策	(特定有害物質(＊＊)を使用している場合)		
	・「土壌汚染対策法」及び「産業廃棄物等の不適正な処理の防止に関する条例」等の法令の規定を遵守する。 ・特定有害物質等による土壌汚染の未然防止・拡散防止に努める。 ・汚染土壌を搬出する場合は適正処理に努める。	順守できた。	土壌汚染につながる油漏洩の対応を順守できるよう、工場規定で油漏洩時に油の広がりを抑える緊急油液処理キットを設置している各置場においての使用状況を確認し、必要なものの在庫はあることを確認した。
産業廃棄物対策	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の法令の規制を遵守し、廃棄物の適正処理を行う。 ・廃棄物の発生量を抑制するとともに、再利用を促進する。	順守できた。	木箱のうち金具でフタを止め、ふちを金具て補強された木箱の金具を取り外すことで、木材および金具ともリサイクル処理にすることができた。

イ．令和７年度　排出水の汚濁状態測定結果

排水口名　：　下水排水口

項目			管理目標値	測定値 最大 (pHのみ 最小～最大)	測定値 平均	全測定回数	目標値を超過した測定回数	目標値達成判定	法令基準達成判定
法令排水基準設定項目（生活環境項目）		水素イオン濃度(pH)	5を越え 9未満	6.6～7.9	7.3	36	0	○	○
		ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量）	150ｍｇ/ℓ 以下	33	7.7	36	0	○	○
		ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）	5ｍｇ/ℓ 以下	2.2	0.6	36	0	○	○

単位はｐＨを除き、ｍｇ／ℓ　　ＮＤ：定量下限値以下
○　達成　　×　未達成

③地球温暖化対策に係る報告

ア．今年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	単位発熱量(MJ)	排出係数	排出量	温暖化係数	合計(CO_2換算)
					kg-CO_2/MJ	kg－CO_2	CO_2	
燃料の使用	軽油	0	ℓ	37.7	0.0686	0	1	0
	ガソリン	0	ℓ	34.6	0.0671	0	1	0
	LPG	42,899	kg	—	2.99 kg-CO_2/kg	128,268	1	128,268
	メタン	910	Nm^3	—	2.08 kg-CO_2/Nm^3	1,893	1	1,893
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	7,110,721 うちCO_2排出対象は 2,369,476	kWh	—	0.415 kg-CO_2/kWh	982,917	1	982,917
合計			MJ			1,113,078	1	1,113,078

イ．当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標（ｔ）		排出量（ｔ）		削減率（%）	
	今年度	2030年度	基準年度(2015年度)	今年度	今年度	2030年度
二酸化炭素	1,311	1,445	3,904	1,113	71.5	63.0
メタン						
一酸化二窒素						
HFC						
PFC						
六フッ化硫黄						
合計	1,311	1,445	3,904	1,113	71.5	63.0

ウ．目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	再生可能エネルギーによる発電	太陽光発電	設置場所およびシステムの検討	276 千ｋＷｈ	218 千ｋＷｈ
2	機器更新	空調機の更新、 変圧器更新、 照明 LED 化		24 千ｋＷｈ	17 千ｋＷｈ
3	機器内要素機器更新	空気圧縮機台数制御システム更新、 空調機ダクト設置		1 千ｋＷｈ	0.1 千ｋＷｈ
4	損失改善	エア漏れ改善、 待機電力	エア漏れ検知器で確認	34 千ｋＷｈ	22 千ｋＷｈ
5	運用改善	生産時間短縮		３６千 kWh	３１千ｋＷｈ
6	再生可能エネルギーの購入	電力購入量の 15%を CO2 ﾌﾘｰ電力充当		1,129 千 kWh	1,068 千 kWh
7	再生可能エネルギーの購入	FIT 非化石証書購入		3,270 千 kWh	3,676 千 kWh

④公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

今年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所等での節水	節水	上水道の蛇口水量の最適化	使用量生産高原単位以下	新設設備用冷却塔への上水道使用で使用量は目標値より増加
2	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	分別回収の高度化	廃組立品の分解	徹底	分解可能品紹介による分別高度化啓蒙
3	事業所等での再生製品等使用	グリーン購入の実施	再生品有無の確認	徹底	安価な場合選択
4	環境負荷の少ない資源、材料、燃料の選択	廃棄時環境影響を配慮した材料の選定	設計審査で確認	徹底	有害物質を避ける取組実施中
5	自動車対策	エコドライブ･アイドリングストップの推進	啓蒙資料配布	徹底	少数継続するものあり
6	特定フロン等使用量の削減	設備更新時、特定フロン使用設備の廃却		徹底	フロン回収処理のできる会社で処分実施
7	環境に配慮した施設	光害の抑制	外灯照明の向きの最適化	夜間照明の抑制	地図照明玉切れLED電球への変更
8	従業員教育	環境自覚教育	新入社員・派遣	2 回/年	3月と9月実施
9	地域社会への参画	敷地境界線付近の樹木剪定	自治会からの連絡等の対応	定期的実施	敷地境界線フェンスを越える樹木は順次伐採
10	プラスチックに係る資源循環の促進	排出されるプラを分別しリサイクル業者へ排出		廃プラの1%ﾘｻｲｸﾙ	年間排出量が少量の部署でも梱包材を回収する活動を推進